

証明された『設楽ダムによる水源開発は不要』

2013年の豊川水系の空梅雨・夏の少雨は観測史上第1位の異常なできごと！！
豊川用水の水源は空にならず、湯水被害はゼロ！！

豊川水系では、2013年は例年になく少雨の夏でした。梅雨時の6月・7月、および水稲かんがい期の5～8月の降水量を、気象統計資料で比較点検してみました。

作手観測点のデータ： 気象庁が長期観測をしている作手のデータによります。

観測資料の期間は、1976年から2013年の8月まで、38年間。

2013年の6月と7月の降水量：

2013年の6月の降水量は、期間中第4位の159mm、7月は期間中第2位の75.5mm、6月と7月を合計した2ヶ月の合計降水量234.5mmは、観測記録のある38年間で第1位の少雨（空梅雨）でした。

2013年5～8月、夏季4か月間の降水量：

469.5mmで、これまでの最少であった1994年の535mmを大幅に下回るダントツ1位の少雨でした。

設楽ダム計画と湯水規模：

設楽ダムは、“近20年”の2位相当の湯水に備えることになっています。1996年がこれに当たりますが、6・7月の合計は568mm、5～8月の合計は844mmで、今年はそれをはるかに超える少雨の夏でした。

空にはならなかった豊川水系の貯水施設：

2013年は、異常な少雨の夏でしたが、豊川用水・総合用水の貯水施設は空にならずに、湯水による被害もなく、9月の降雨で貯水は回復しました。

【豊川水系水源施設（宇連・大島ダム＋調整池群）合計の貯水率・貯水量の推移】

月 日	7月31日	8月15日	8月28日	9月3日
貯水率（％）	61.6	39.0	25.2	18.6
貯水量（千 m ³ ）	31,900	20,200	13,000	9,640

結論：豊川水系の水源開発は完成しており、設楽ダムは不要なことが証明されました。

豊川総合用水事業が完成し、完全運用を始めた2003年度以降、観測史上最小降水量を記録した2005年の年度、および、夏季の最少降水量を記録した2013年の2年度だけ、豊川水系は節水・給水圧調節を経験しました。両年度の異常湯水の場合以外、11年度のうち9年度は、節水なしで過ぎたわけです。湯水による被害はありません。設楽ダムの目標『10年に1度規模の湯水対応』は完成済みです。

市野 和夫（2014年2月11日記）